

日本医史学雑誌 第69巻 第2号

目 次

第124回 日本医史学会総会・学術大会 演題目次

プログラム

特別講演

- I 海軍省お雇い医師ウィリアム・アンダーソンが日本に残したもの
——医学と美術史, そして……—— …………… 彬子女王 145
- II 福井崇蘭館の古医学書 …………… 小曾戸 洋 146
- III 入澤達吉の詩文 …………… 佐藤 保 148

市民公開講演

- 日本文学における病 …………… ロバート キャンベル 150

教育講演

- 『医学史事典』が語る医史学の世界 …………… 坂井 建雄 151

シンポジウム「医療と文化」

- 趣旨説明 …………… 町 泉寿郎 153
- 1 遣唐使のもたらした医療と文化 …………… 丸山裕美子 154
- 2 医療と茶文化 …………… 岩間眞知子 156
- 3 渋沢栄一の医療と文化に対する貢献 …………… 稲松 孝思 158

市民公開シンポジウム「歴史から学ぶ感染症への視点」

- 趣旨説明 …………… 渡部 幹夫 159
- 1 感染症の歴史からの学びに, 更に加える視点 …………… 加藤 茂孝 161
- 2 戦争と感染症 …………… 柳川 鍊平 163
- 3 流行病と養生に役立つ漢方 …………… 星野 卓之 164

一般演題

- 1 新約聖書における先天盲開眼奇跡とモリヌクス問題 …………… 溝田 悟士 165
- 2 オリバシオス『医学集成』におけるガレノス医学の受容 …………… 福島 正幸 166
- 3 偽ガレノス『諸器官の裨益について』:
アラビア語文献との比較から …………… 矢口 直英 167
- 4 『医学自然学報』と『コペンハーゲンの医学・哲学紀要』の比較
…………… 安西なつめ 168
- 5 18世紀ロンドンにおける解剖学私塾の興り
——ウィリアム・ハンター解剖学校設立の背景——
…………… 土屋江里子, 坂井 建雄 169
- 6 アデンブルック病院の創設と発展 …………… 柳澤 波香 170
- 7 ルイの瀉血研究はどのように評価されてきたか 没後150年間の変遷
…………… 根木 翼, 坂井 建雄 171

8	膀胱腫瘍に対する修復手術の歴史とこの領域における J. M. Sims の評価	竹内 薫	172
9	医学史的観点から理解する神経学用語語源	杉田 克生, 池田黎太郎	173
10	グットマン報告を精査する： 1890-91年ドイツの「ツベルクリン」臨床実験	月澤美代子	174
11	Constantin von Economo と嗜眠性脳炎	伊藤 泰広	175
12	国際麻酔科学史シンポジウム 第10回大会を開催して	牧野 洋, 土手健太郎	176
13	ポンペの臨床検査学と臨床講義の原典は科学的医学雑誌 <i>Kliniek</i> である	相川 忠臣	177
14	ウィリアム・アンダーソン『看病要法』（明治12年）にみる 病人のための西洋料理法	平尾真智子	178
15	日本における検眼鏡導入・開発経過	園田 真也	179
16	明治時代のドイツ留学生——前田令太郎の写真帳より——	高際麻奈未	180
17	明治の文豪の作品中に見られた日本医科大学前身の済生学舎	志村 俊郎, 弦間 昭彦	181
18	生物学者 津田梅子：津田塾大学創設者の自然科学研究者としての側面	佐藤 裕	182
19	親子二代のアショッフ教授と北大医学部の世紀を超えた交流 ～開講100周年にあたって～	鈴木 重統	183
20	張家山『算数書』「医」にみる医者の評価 ——周礼医師との関係——	猪飼 祥夫	184
21	鬼子の誕生と怪異——日本古代を中心として	小山 聡子	185
22	曲直瀬道三『切紙』の原型と内藤記念くすり博物館所蔵『家傳記』について	鈴木 達彦, 平崎 能郎, 並木 隆雄	186
23	『艶本房術龍之巻』について	永塚 憲治	187
24	表形式による基本漢方の薬味加減法の覚え方 ——富士川文庫『短要方』の例——	吉川 澄美	188
25	朝鮮人参ブームへの批判——香川修庵の『一本堂薬選』を中心に	向 静静	189
26	南木龍江の医学思想	西巻 明彦	190
27	合田強の『賀川玄悦先生産書』の写本について	板野 俊文, 中澤 淳	191
28	中根東里を佐野に招聘した医師・金束信甫（思順）著の新出史料 『反治解』について	松木 宣嘉	192
29	上州の種痘再考	青木 歳幸	193
30	呉秀三の漢詩文	町 泉寿郎	194

31	旧庄内藩の末裔の三医師	黒羽根洋司	195
32	杏雨書屋常設展示「流行り病を乗り越えて」	百瀬 祐, 瓢野由美子	196
33	杏雨書屋と所蔵資料 (2016年以降 新収資料)	瓢野由美子, 百瀬 祐	197
34	東洋文庫所蔵『重修政和経史証類備用本草』について	清水 信子	198
35	近世日本における華佗像	伊 丹	199
36	京都府北部に眠る医学史料 ——太田典禮および新宮涼庭ゆかりの史料群——	島山奈緒子, 池内早紀子	200
37	山崎佐による第二次世界大戦期の日本医学史記述について	渡部 幹夫	201
38	明治期, 鍼灸師の居た所	柴田 泰治	202
39	明治9年新川県医師の就学履歴と医療環境	海原 亮	203
40	1877 (明治10) 年横浜コレラ流行の疫学地図 ——日本初の疫学地図か? ——	逢見 憲一, 浅見 真理	204
41	地域医療から見た避病院・隔離病舎について	木下 浩, 松村 紀明	205
42	パンデミック感染下の先端医療と医療者の罹患体験 ——Cushingの事績をたどって——	柳澤 隆昭	206
43	大正期の歯科教育改革に影響を及ぼした女子学生運動 (第2報)	永藤 欣久	207
44	流行病にみる近代医学衛生学の発展	山口 静子	208
45	戦後日本の衛生教育に関する研究 ——滋賀秀俊『公衆衛生教育便覧』の検討を中心に——	田中 誠二, 杉田 聡, 丸井 英二	209
46	アメリカ占領下沖縄の優生立法 ——優生保護法の廃止とその背景——	橋本 明	210
47	ポリオ集団予防接種の政治的決断を人間の安全保障の視座から分析する	中村 安秀	211
48	カルテの保存はいかにあるべきか ——カルテの学術・史料的价值についての考察	小島 光洋, 井原 裕, 石井 紀夫, 石井 千恵	212
49	1953年陳情の精神衛生統計面の背景	岡田 靖雄	213
50	林羅山の本草書受容について	武田 祐樹	214
51	儒医としての山縣大貳	今井 悠人	215
52	紅葉山文庫書物奉行・深見有隣の事績	今井 秀	216
53	華岡流の繁栄と衰退	土手健太郎, 矢野 雅起, 高石 和, 牧野 洋	217
54	『解体新書』の扉絵のアダム, イブ像の淵源	澤井 直	218
55	国立科学博物館所蔵の『遠西医範』の一写本について	西嶋佑太郎	219

56	『遠西医方名物考』「刺賢埜児」にみる「精油」	佐藤真奈美	220
57	新出の『揆穴輯要』について	加畑 聡子, 星野 卓之, 花輪 壽彦	221
58	『櫟窓医贖』から『医贖』へ ——刊本『医贖』の成立と多紀元簡の考証学を中心に——	景 徳	222
59	松崎慊堂の儒者・医者との交遊	郭 秀梅	223
60	福沢諭吉の思想形成と医学——その文明論との関連——	都倉 武之	224
61	海外の医学史博物館の活動 ——台湾の高雄醫學大學「高醫校史暨醫學人文館」の展示方針—— …… 蕭 惻惻 (Hsiao Lily), 福永 肇, 劉 景寬 (Liu Ching-Kuan)		225

誌上発表

62	七表八裏九道における数脈の位置	中川 俊之	226
63	『小学紺珠』にみえる医経の引用について	橋本 典子	227
64	永嘉医派について	水溜 亮一	228
65	研医会図書館所蔵 24 冊本『黄帝内経太素』の報告 その2	安部 郁子	229
66	江戸時代の五行色体	木場由衣登	230
67	長富恵淑「天柱居記」試論 ——被伝者・長富升庵は独嘯庵に他ならず——	亀田 一邦	231
68	中島友玄『鍼灸施治姓名』にみる症状と経穴	ヴィグル マティアス	232
69	旅病人と八幡八町の町方医師	森永 正文	233
70	華岡青洲・吉益南涯編「陰証百問」の成立に関する新知見	松木 明知	234
71	シーボルトの「盲目のミカド」第一幕草稿について …… 由比 文顕, 中山 茂春		235
72	幕末・明治前期来日フランス人医師の動植物研究 ——動植物環境馴化協会での活動——	須長 泰一	236
73	NHK 朝ドラ『らんまん』の牧野富太郎と伊藤圭介	吉村 美香	237
74	北里柴三郎が郷里熊本で再出発を誓った二つの書	松崎 範子	238
75	清国兵俘虜の体格検査に関する一考察 (1)	秋田 博孝	239
76	第二次世界大戦後の台湾の寄生虫対策と日本の国際協力	容 世明	240

投稿規定	246
編集後記	248